

三田 嫌いな人にすごい小さいのを出してたよね。

関 そうそうそう。すごく小さくして、すごくぬるくして出していた（笑）。

金野 でもそれがおいしいんですもんね。

関 まあこっちとしてはもちろん反感した気持ちがあったのと、「とにかくこれだ！」みたいな感じで出していましたね。真面目にはやっているんですよ。ただやりすぎるところがある。まあ幸い食べることに限っては、親の方にパラサイトできていたので、食うには困らなかったです。で、商売について考え始めたのは1996、97年くらいに結婚して、子供が生まれたり、それまでアルバイトさんと一緒にやっていたのに正社員を雇ったりして、「しょうがないから、稼ぐか」という感じで始めました。当時はメディアに出るのも全部拒否していたんですけどね。人の人生を1ページで切られたら嫌だと思って。本当に尖ってました（笑）。それまでコーヒー豆の販売もしていなかったんですよ。自分で焙煎して、自分の店内でコーヒーを出していたんですが、コーヒー豆をお客さんからほしいって言われても絶対に売らなかった。結構ほしいって声は多かったんですけどね。でも「こうやってお店みたいに点てられないでしょ？」っていうのが理由でした。

栗澤 当時の盛岡のコーヒー事情はどんな感じでしたか？

関 自家焙煎の店はここまで多くなかったと思いますね。僕が始めた頃に、僕より前にやっていたのはクラムボンさんと都南のKuRa珈琲さん。あとは、アンゴラコーヒーさんとか、マドカ珈琲店さんくらいじゃないかな。喫茶店は多かったんですよ。ふかくささんとか喫茶ママさんとか。純喫茶はすごい多かった。だけど、自家焙煎のコーヒー屋っていうのはほとんどなかったと思いますね。まあでも自分のことしか考えてなかったから、他の人のことをあまり覚えてないです。みんな絶対そうだと思うけど、自分のところが一番うまいと思うから他のお店には絶対行かないもんね。あとは自分の店はコーヒー専門店という枠組みだって考えがあって、東京から帰ってきて、こんな感じ（鼻を伸ばす）で帰ってきているから、「お前らに何がわかるんだ」みたいな感じもありましたね。そういう意味では地元も含めてコーヒー業界の東京思考が強くて、僕の頃の、あの頃の90年代の終わりは、中央に認められないと、こっちでもうまいかみたいな雰囲気はあったような気がする。東京とか首都圏の人たちが名前を載せてくれるようになって、初めて認められるっていうのがなんとなくあった。地場の評判で何かいい感じになることはなかったんじゃないかなって、珈琲屋に関しては思うかな。だから、90年代は東京しか見てなかったですね。ある時から少し考えが変わって、場所はどこでもいいから、自分はいいものをつくらうと思うようになりました。まあそれでも盛岡でやりながら、友達が来ることは嫌でしたね。恥ずかしくて。知らない人にだったらコーヒーのことも語れるんだけど、知っている人には「お前そんなこと言わなかったよな」って言われる（笑）。だから絶対来てほしくなかった。宣伝とかは一切やらないし。今もあまりやらないですね。取材を受けることはあるけど、自分からすることはしない。

金野 そうして気持ちが変わってきて、機屋さんは事業を広げていますが、今は何店舗ですか？

関 今は、クロステラスにあるこの店を含めて3店舗。従業員は20人くらいいますね。

金野 現状どうですか？

関 間口を広げたことに関しては、盛岡で事業を展開しているという面ではよかったなと思います。あとは、震災以来、ここ10年くらいコーヒー屋さんがすごく増えているんですよ。それですごいのは、そのお店が潰れていないこと。盛岡三大麺のように、盛岡がコーヒーの街として発信できるんじゃないかと思いついてます。なので、最近はクロステラスでコーヒーフェスティバルを開催したりしているんですが、ここ1年自分でいろいろやってみて思っているのが、こんな状況でもみんなが生きられるまちは面白いなと。機屋としていうなら、何もなかったことが功を奏したのかなと思います。本当に当初は何もなかったんですよ。店員のマスク着用に関しても、クロステラスさんから「マスクをしてほしいって言ってもしないのはわかっているけど、してくださいってこっちは言わなきゃいけないんです」って注意されるんだけど、「お客さんから2回クレームがきたら着けよう」って決めたりして。まあでもその日のうちに2回きたんだけどね（笑）っていうくらいな感じでリスクはいっぱいあるけど、普通でいいんじゃないかなって思います。僕自身が子どもの頃はそら辺に落ちたやつとかも食べていましたね。

三田 幼稚園にも時間通りにきたことはない（笑）

金野 だいぶ武勇伝はありますよね。（笑）

関 そういうこう、体に入れるものですら、汚いとか悪いとかないところで生きてきたので、風邪とかウイルスとかはね…。人に迷惑がかかったらまずいけども。

金野 そうですよ。あ、機屋さんのコーヒーが届きましたね。ぜひみんなで飲みながら、話しましょう。じゃあ、続きましてさわや書店の栗澤さん。さわや書店さんは設立が昭和22年でしたか？



今年で創業28年目を迎えるネルドリップ珈琲の「機屋」さんが昨年新設したクロステラス盛岡1F「4番目の珈琲店」。
盛岡のコーヒー文化を築き上げてきた名店がさらなる活動を繰り広げる「盛岡珈琲フェスティバル」や「機屋 Project」など、今後の展開にも期待せずにはられない。

「4番目の珈琲店」

Tel: 019-601-8272

<https://hatayacoffee.com/>

